経済産業省
資源エネルギー庁

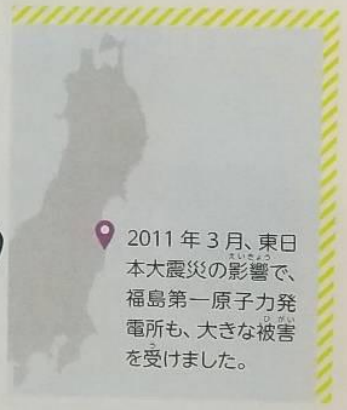
# 復興のあと押しは まず知ることから

## ～福島第一原子力発電所の廃炉作業の今～

**東日本大震災に伴い発生した原発事故から約10年。**
**福島では今も、廃炉作業が続いています。**

1日あたりおよそ4000人の作業員が、事故を起こした原子力発電所を安全に片付けていく「廃炉作業」に携わっています。

福島第一原発のほとんどの場所では、防護服は必要なくなり、一般的な作業服での作業が可能になっています。



2011年3月、東日本大震災の影響で、福島第一原子力発電所も、大きな被害を受けました。

## 廃炉作業は、地下水との闘いです。

福島第一原発の地下に流れる大量の地下水。
この地下水が放射性物質に触れて「汚染水」にならないよう、地下水を制御し、施設に近づけない対策などが取られてきました。

# 浄化処理した水を安全に処分していきます。

発生した汚染水は、ALPS という装置で浄化処理した「**ALPS 処理水**」として、今後安全に海に処分する方針です。これによって、「環境や生物が汚染される」といった、事実とは違う認識が広まる「風評被害」を心配する声もあります。その影響が出ないよう、国は、安全性を伝える取組を続けていきます。

人間が食べたり、飲んだりしても**健康に問題のない安全な状態で処分**されます

安全基準を超えた放射性物質を含む食べ物が市場に流通しないよう、**検査を行っています**

震災以降、放射性物質に対する不安から、日本産食品の輸入に制限をかけてきた外国政府もありましたが、放射線検査を行い、安全性をきちんと説明することで、そうした輸入制限はなくなってきています

食品の輸入制限を行っている国・地域の数

**放射性物質や廃炉作業について、1人1人が理解し、行動することが、福島の復興に繋がります。**

**この資料に関するお問い合わせ**


経済産業省　資源エネルギー庁
原子力発電所事故収束対応室

TEL 03-3580-3051
FAX 03-3580-0879


廃炉・汚染水・処理水対策ポータルサイト

復興庁「福島の今」